

授業科目 病理学

| | | | | |
|-----------------|------|----|-------|----|
| 【担当教員名】 山本通子 | 対象学年 | 1 | 対象学科 | 栄養 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 必修 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】
 病理学は疾病の原因とその成り立ち（病態発生）についての学問で、医学・医療分野の基礎的科目の1つである。
 管理栄養士国家試験範囲の大分類では「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」に含まれる。種々の疾病の原因を明らかにし、その原因が生体にどのように作用し生体がどのように反応し、その結果どうなるかを知ることは、疾患の診断・治療・予後の理解に役立つ。解剖生理学や生化学の知識をもとに、授業では病理学の基礎的事項や用語を理解する。また、臨床医学科目と関連する分野も学習する。

- 【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】
- 1) 腫瘍の定義、分類、発生機序、生物学的特性を理解し、良性腫瘍と悪性腫瘍の差異、転移などの臨床的事項も学ぶ。
 - 2) 免疫系の全体像、主な免疫担当細胞の名前と働きを説明できる。アレルギー疾患や自己免疫疾患の例をあげ発生機序を説明できる。
 - 3) 感染症の成立要因と防御機構、病原微生物の種類、代表的疾患について学ぶ。
 - 4) 循環障害に関連した用語を理解する。とくに梗塞、血栓症、塞栓症について具体例をあげて説明できる。
 - 5) 内分泌系、生体の恒常性維持機構とその異常をきたす疾患について学ぶ。
 - 6) 蛋白質、糖質、脂質およびミネラルの代謝異常について学ぶ。
 - 7) 創傷治癒、炎症、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、進行性病変（再生、化生、肥大、過形成）などの病理学用語を理解する。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO | |
|----|-----------------------------------|-----|--------------------|
| | | 番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
| 1 | 病理学とは 病理学の総論的事項 | | 講義 |
| 2 | 腫瘍（1） 腫瘍の診断：病理診断、画像検査など | | 講義 |
| 3 | 腫瘍（2） 腫瘍の発生と進展、腫瘍の分類（例：胃癌） | | 講義 |
| 4 | 免疫（1） 免疫系の全体像 | | 講義、ビデオ |
| 5 | 免疫（2） 免疫系の異常を示す疾患：自己免疫や免疫不全 | | 講義 |
| 6 | 免疫（3） アレルギー疾患について。免疫系のまとめ | | 講義、小テスト |
| 7 | 感染症（1） 感染防御機構と病原体 | | 講義 |
| 8 | 感染症（2） 主要な感染症（肝炎、結核、STDその他） | | 講義 |
| 9 | 循環障害 充血、うっ血、血栓、塞栓、梗塞、出血、ショックなど | | 講義、小テスト |
| 10 | 内分泌調節系（1） 恒常性維持のしくみとその破綻 | | 講義 |
| 11 | 内分泌調節系（2） 主要な内分泌疾患 | | 講義 |
| 12 | 代謝異常（1） ミネラルの代謝異常、骨粗鬆症とカルシウム代謝 | | 講義 |
| 13 | 代謝異常（2） 鉄代謝と貧血、ビリルビン代謝と黄疸、核酸代謝と痛風 | | 講義 |
| 14 | 病理学用語のまとめ 細胞の生と死、修復と再生、炎症反応など | | 講義 |

| 【使用図書】 | ＜書名＞ | ＜著者名＞ | ＜発行所＞ | ＜発行年・価格・その他＞ |
|-------------------|-----------------------|-------|-----------|--------------|
| 教科書 (必ず購入する書籍) | カラーで学べる病理学 | 渡辺照雄 | ヌーヴェルヒロカワ | H14年初版・2625円 |
| 参考書 | | | | |
| その他の資料 | プリント (Powerpoint図を含む) | | | |

| | |
|---|----------------------------------|
| 【評価方法】 出席状況と簡単なレポート提出（30点）、 期末試験（70点） | 【履修上の留意点】 授業内容は教科書の総論部分が主になる。 |
|---|----------------------------------|